

企業名：積水ハウス

レポート名：Value Report 2022

1. この会社が目指す姿が理解できるか

積水ハウスの企業理念は根本哲学として「人間愛」を中心に、三つの理念を掲げている。まず、基本姿勢としての「真実・信頼」、次に目標として「最高の品質と技術」、最後に事業の意義として「人間性豊かな住まいと環境の創造」を掲げている。そして、積水ハウスのグローバルビジョンとして、“「わが家」を世界一幸せな場所にする”として、「住」を基軸に、融合したハード・ソフト・サービスをグローバル企業への変革を進めている。そしてSDGsを意識した持続的な価値を創造するための課題と目標を設定した「サステナビリティビジョン 2050」を定めている。統合報告書に記載されているこれらの企業理念と二つのビジョンから、積水ハウスという会社が、私たちの生活の中心である「衣・食・住」のうちの「衣」を支える企業であるとともに、地球環境に配慮した素晴らしい企業であることがわかる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

統合報告書によると、積水ハウスの競争優位性であるコアコンピタンスは大きく3つある。まず一つ目は「技術力」である。デザインや技術、それを支える様々な資格保有者などの会社の持つ「技術力」が積水ハウスグループの強みの一つである。二つ目は「施工力」である。積水ハウスグループの各会社の連携による施工協力体制によって工期短縮やスキル向上が可能になり、建設系の企業としての大きな強みとなっている。最後に、三つ目のコアコンピタンスは業界一の累積建築戸数を誇る「顧客基盤」である。これらの三つのコアコンピタンスに加えて営業やアフターサービスにいたるまで、住まいづくりに関するすべての過程を積水ハウスグループが担うことで消費者のニーズに最大限応えることができ、競争優位性に優れているといえる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

統合報告書には持続的成長に向けた戦略である、財務資本戦略、環境戦略、人材戦略、技術開発戦略の4つが記載されていた。財務資本戦略では、さらなる成長投資と財務健全性のバランスを追求し、時代と環境の変化に対応した新たな価値を創出していくことを目標にした中長期的視点による投資を行っている。環境戦略は1999年に発表した「環境未来計画」を原点とする地球環境への負荷を低減する取り組みの推進であり、ゼロ・エネルギー・ハウスの発売など、業界を牽引する企業グループとしての環境戦略が推進されている。人材戦略ではグローバルビジョンや企業理念にのっとり「世界一幸せな会社」にするた

めに、「働き方改革」や「自律的なキャリア形成」などをポイントにした人事制度改革を行い、これによって素晴らしい人材の育成に成功しているように思える。技術開発戦略は購入者の幸せを実現する住まいの研究開発を目指し、ハード・ソフト・サービスを融合させた研究開発を行い、基軸である「住」から事業領域の拡大を図っている。

積水ハウスの成長戦略の中心であるこれらの4つの戦略を考慮すると、安定した資本や常に業界の先頭を走っていることから競争優位性の持続性は大きいと考える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

もし私がこの企業に就職したならば、“視野の広さ”と“柔軟な発想力”という2点において特に価値向上を達成できると考える。まず“視野の広さ”を挙げた理由は、積水ハウスという会社が単に家を建てている会社ではなく、環境問題や技術開発、ハード・ソフト・サービスの融合など、様々な事柄に注目している企業であり、それらを広い視野で見ることができるのは優秀な人材であると考えたためである。次に“柔軟な発想力”の理由は、積水ハウスの事業は、幸せな住まいを提供することを軸に様々な分野へ拡大しようとしているため、従業員は常に住まい手の幸せや顧客のニーズに合わせた提案をしなければならず、その過程で“柔軟な発想力”が鍛えられると考えたからである。主にこの2点が私の考える、積水ハウスへの勤務による人的資本の価値向上である。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

まず、この報告書を見て思ったことは長い、多いであった。私はこのレポートを書くために初めて統合報告書というものを閲覧したが、とても長くて分量が多く、読み返すことにも一苦勞で内容をまとめることが難しく感じた。全体一括のファイルとは別に、章やセクションごとに分けたものが閲覧できるようになればとても読みやすくなるのではないかと考える。